

# 学道一如

発行 小樽双葉高校  
生徒会通信  
2024年7月8日  
第20号

## 小樽黎明期の歴史を伝える 忍路高島七地蔵

6月22日、オタモイ地蔵尊例祭がオタモイ園地駐車場にて開催され、引き続き、講演会・情報交換会が塩谷サービスセンターで行われた。講演会では小樽商大の高野宏康先生が「オタモイ地蔵と「忍路高島七地蔵」―その歴史と今後の継承」と題し講演された。その後、参加者による情報交換会が持たれた。

高野先生は北前船の伝承や文化財が数多く残る西部地区の重要性を強調され、1. オタモイ地蔵尊の現在 2. オタモイ地蔵尊の誕生と変遷 3. 今後の継承、について語られた。

## オタモイ地蔵尊を守れるか

### オタモイ地蔵尊の歴史

オタモイ地蔵は江戸時代末期

の184

8年に建

てられた

と伝えら

れる（現

在の地蔵

堂は19

52年に

建てられ

た）。建

立の伝説

は諸説あ

る。代表

的なもの



オタモイの海岸線



オタモイ地蔵堂

は、越中魚津の女性が北前船に密航して青年の後を追ひ、嵐に遭って海に身を投じた、というものだ。妊娠していた女性の遺体がオタモイ海岸に流れ着き、

母乳が流れて海を白く染めたという。憐れんだ漁夫たちが埋葬し、供養のために地蔵尊が建立された。



オタモイ遊園地の図（オタモイ地蔵堂所蔵）

以来、母乳不足の女性が祈願するようになった。また、別の伝承もある。お堂を建てた漁師のひとりに松蔵という若者がおり、彼は郷里越後に妻を残してオタモイに稼ぎに来ていた。この夫婦は子宝に恵まれず、松蔵は毎

日のようにお堂の地蔵に子供が授かるようにと祈願していたところ、後日帰郷後めでたく子宝を授かったという。



約三千体の地蔵

時代を経て、オタモイ地蔵堂は積丹沖の海難事故で亡くなった人の魂を祀り、子宝にも恵まれる地蔵堂として毎日数百人、年に一度の例祭には多い時には数千人の参拝



海水浴場として賑わった（オタモイ地蔵堂所蔵）

者が訪れる道内随一の霊場となつた。かつてはリゾート地

その参拝客を見込んで、戦前、海水浴場やリゾート施設「オタモイ遊園地」が建設された。中でも断崖絶壁にできた高級料亭「龍宮閣」が人気となり、オタモイ海岸は観光地として栄えた。ところが、1952年に龍宮閣が焼失し、遊園地も閉鎖された。



昨年の地蔵尊例祭

3年、オタモイ海岸付近は国定公園に指定され、小樽が誇る景勝地として、多くの観光客や市民が訪れてい



龍宮閣、清水寺と同じ施工法

## 崖崩れで道が閉ざされる

この地域で何度か崖崩れが発生し、2006年以降、遊歩道は閉鎖されたままである。再整備が検討されたものの、工費が膨大なためである。オタモイ地蔵尊への通路は閉ざされ、堂守の村上洋一さんが一人で管理していたが、2023年4月に村上さんが亡くなっていることがわかった。地蔵尊はそのまま放置されている状態だ。

## 西川家が建立に寄与

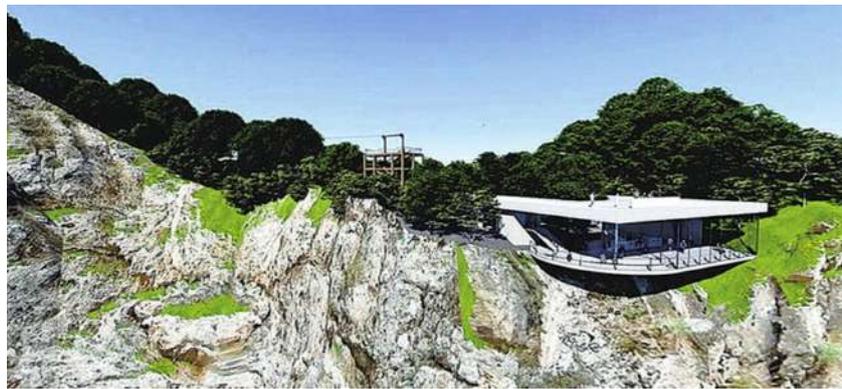
地蔵堂はこれまで三度、陸側へ移転していることがわかってい。忍路、高島の場所一帯を請け負って大きな財を成した西川徳兵衛が、海への感謝と神威の海で命を失った人々を弔うため、1848年、100体の地蔵尊の建立を発願した。後年西川家11代西川吉之輔が先代の残した古文書でこのことを知り、探索

の末6体を発見することができた。そのうちの1体がオタモイ地蔵尊とされる。

明治10年(1877年)にはこの地を村上三太郎が譲り受け、以降、村上家が代々地蔵堂を守ってきた。

参拝が可能だった頃には、自ら真似て作った小さな地蔵を持参して奉納する者も多く、およそ三千体の多種多様な地蔵が納められている。

地蔵は仏教の菩薩の一つで、



新道岬に設置される「オタモイテラス」のイメージ図。中央はジップライン始点のやぐら(小樽商工会議所)

### 2026年にジップライン開業 オタモイ再開発

小樽市の景勝地・オタモイ海岸に昭和初期にあった「オタモイ遊園地」跡地周辺の観光開発構想で、小樽商工会議所は、ワイヤロープで海上を滑降するジップラインの開業などを盛り込んだ、事業費約15億円の第1期計画をまとめた。4月にも事業を進めるための新組織「オタモイ開発協議会」(仮称)を発足させ、2026年10月の開業を目指す。

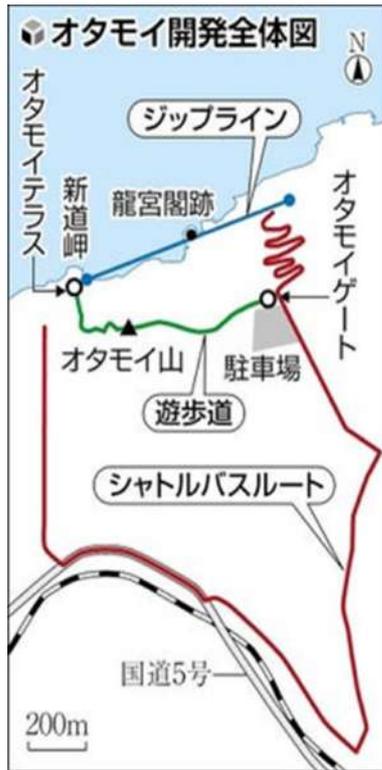
一部が廃道化している遊歩道の整備は管理者の道に要請する。年間約12万人の利用を想定している。

注目されているのはジップライン構想だ。その始点と終点の間はシャトルバスで回遊できる。ジップラインは、ナイアガラの滝(カナダ)や、グランドキャニオン(米)などで実績のあるカナダのスカイライナー社と2月に調査を実施。3億円以内での設置が可能と判断された。

断崖絶壁に沿った海上のジップラインは全国的にも例がなく、空中から独特の地質やオタモイ地蔵尊、龍宮閣跡などが眺められ、小樽の自然や歴史を実地で学べるアトラクションとしても注目される。

新道岬に建設されるテラスは、崖の上から海側に最大約15メートルせり出した構造。ジップラインの始点ともなり、カフェや売店、展示施設などを備える。

開業時期を4年前倒したため、スピードアップが必要となった。予算面には課題も多いが、委員会はオタモイ開発を小樽全体の観光の振興につなげたい意向だ。



幅広い信仰があり、北海道では日本海沿岸に多数建立されている。オタモイ地蔵尊は堂守の村上さん亡き後、市民の実行委員会により今年二回目の例祭を行った。高野先生も実行を支える一人だ。

### 地蔵堂抜きオタモイ再開発

2021年、ニトリ会長がこの地域の再開発の調査費を商工会議所に寄付し、今春、第1期計画がまとまった。それによる

### 忍路高島七地蔵

北前船の歴史が残る忍路高島の地域には「七地蔵」の参拝ルートがあった。①正林寺(高島) ②龍泉寺(祝津) ③無量寿寺(稲穂) ④オタモイ地蔵堂 ⑤桃内地蔵堂(徳源寺に移転) ⑥大忠寺(大徳寺) ⑦津古丹地蔵堂(忍路)、である。①②③は住吉屋西川家が建立したものと考えられている。中には西川家が寄進した青銅製の香炉が確認されている寺もある。

正林寺の地蔵堂は1704年に建立され、今も地蔵大祭が営まれ、ご詠歌も歌い継がれている。津古丹地蔵は西川家とのつながりはないものの、地元で大切にされている。

「歴史を紡ぐ」情報交換会 情報交換会には約30名の方々が参加されていた。堂守の村上さんのご親族、忍路高島七地蔵を所蔵するお寺の住職さん、塩谷まちづくり推進会の関係者、大学生(上写真)らが発言されていた。その中で、この地域が小樽の宝であること、地蔵堂の移転の可能性、七地蔵がネットワークを作り、交流や報恩講ができれば、など発言があった。



が発言されていた。その中で、この地域が小樽の宝であること、地蔵堂の移転の可能性、七地蔵がネットワークを作り、交流や報恩講ができれば、など発言があった。

今の時代にかつてのような地蔵信仰はないかもしれない。だが、オタモイの歴史において、北前船の歴史、地蔵の存在が大切なものであることを語り継ぐ必要があることを再認識した。